

1 目的

市の障がい者福祉に関する課題のうち、行政で取り組むこと、協議会で取り組むことを整理し、『みよし市障がい者自立支援協議会』の方針を決める。

2-① 目標、達成度

障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題と、解決に向けた取組の方針が、運営会議構成員内で共有されている。	取組内容の達成度	75%	次年度の方向	継続
---	----------	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
<ul style="list-style-type: none"> 基幹的相談支援センター担当から、相談支援事業等（個別支援会議や事例検討会等）で確認できた地域課題の報告を受け、確認する。 確認できた地域課題について、解決に向けてどのように取り組むか協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基幹的相談支援センター担当から地域課題の報告を受けた。 事例検討会及び相談支援専門員が対応している個別のケースから抽出した課題についても確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題が整理され、運営会議構成員で地域課題を共有できた。 運営会議構成員が、相談支援業務の中で地域課題を意識できるようになった。 地域課題を踏まえて、次年度の協議会運営について検討することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の運営会議では、地域課題の共有にとどまり、具体的な取組の協議に至らなかった。 今後ケースの数が増えていくことを想定して、地域課題の新たな確認方法の検討が必要である。

2-② 目標、達成度

各専門部会及び検討チームが滞りなく運営されている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
---------------------------	----------	------	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
各専門部会及び検討チームの担当から報告を受け、取組内容や進捗を確認する。必要に応じて、各専門部会等の運営についての協議・助言を行う。	各部会等の担当から報告を受け、年間計画表と照らし合わせながら進捗確認を行った。必要に応じて、運営についての協議・助言を行った。	各部会等が、年間計画表に沿って運営することができた。	限られた時間の中で活発な意見交換ができる工夫が必要である。

2-③ 目標、達成度

みよし市における地域生活支援拠点の整備状況が評価され、自立支援協議会構成員内で共有されている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
---	----------	------	--------	----

3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
<ul style="list-style-type: none"> 地域診断表を用いて、令和3年度における整備状況の評価を行い、現状を共有・分析する。 各項目のレベル向上に向けた具体的な検討及び取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域診断表を用いて評価を行い、なぜそのレベルにしたのか、意見交換を行った。 各項目のレベル向上に向けた具体的な検討を行った。 地域生活支援拠点を周知するためのロゴマークの周知方法について、検討を行った。 	地域生活支援拠点の整備状況について、運営会議構成員内で共通認識を持つことができた。	<ul style="list-style-type: none"> 地域診断表を用いて現時点での評価を行ったが、様々な取組の成果がレベルの向上として表れるまでには時間がかかると考えられるため、年に1回全体会時に評価を行う。 評価を積み重ね、レベルの推移を確認・分析し、その状況にあった取組を考えていく必要がある。 作成したロゴ等を、より効果的に活用していく。

2-④ 目標、達成度

全体会で協議すべき内容及び優先順位が整理・共有されている。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
-------------------------------	----------	------	--------	----

3-④ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
全体会前に議題（協議内容）について検討し、決定する。	全体会前に議題（協議内容）を話し合い、運営会議構成員間で共有した。	各部会の取組を共有でき、全体会を円滑に進めることができた。	全体会が各部会の報告に時間を取られ、地域課題や地域生活支援拠点の整備に関する意見交換の時間が少ない。

4 次年度の目標（案）

①障がい者相談支援事業等で確認できた地域課題と、解決に向けた取組の方針が、運営会議構成員内で共有されている。
②各専門部会及び検討チームが滞りなく運営されている。
③みよし市における地域生活支援拠点の整備状況が自立支援協議会構成員内で共有され、地域診断表の各項目のレベル向上に向け協議されている。
④全体会で協議すべき内容及び優先順位が整理・共有されている。

令和3年度みよし市障がい者自立支援協議会 人材育成検討チーム 事業報告書

(作成：令和4年3月9日、担当：しおみの丘 相談支援専門員)

1 目的

障がい福祉従事者がソーシャルワークを意識して、業務に取り組めるようになる。

2-① 目標、達成度

① 障がい福祉従事者にソーシャルワーク・地域生活支援拠点の考え方が浸透する。	達成度	60%	次年度の方向	継続
--	-----	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
<ul style="list-style-type: none"> 障がい福祉に関わる様々な知識を学び合う場として、on-lineワークショップを企画・開催する。 みよし市版地域生活支援拠点（COCO-COLOR）の普及に努める。 「2030SDGs」カードゲームを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> on-lineワークショップを全3回開催。市内事業所職員9名が参加し、人材育成や定着、確保をテーマに意見交換を行った。 障がい者自立支援協議会主催講演会（オンラインシンポジウム）の運営、就労支援部会の障がい者雇用支援セミナーのオンライン開催に協力した。 集合形式で行う「2030SDGs」カードゲームは、新型コロナウイルスの感染状況の見通しが立たなかったため、開催を見送った。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは、「所属する事業所だけでなく、市内全体で人材育成を考えていかななくてはいけない」との感想が複数名からあった。 各研修で市内の事業所や職員と繋がり、共通の課題を意見交換することによって、地域の課題や自分たちの役割を共有することができた。地域生活支援拠点の「人材育成」「地域の体制づくり」への意識は高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> みよし市版地域生活支援拠点「COCO-COLOR」の具体的な普及に努めていく。

2-② 目標、達成度

② 市内の事業所・専門機関の役割や取り組みについて知る機会をつくり、障がい福祉従事者同士のネットワークが強くなる。	達成度	70%	次年度の方向	継続
---	-----	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
研修委員を結成し、障がい福祉従事者を対象とした初任者研修（1～5年）・中級研修（6～15年）を企画・開催。	<ul style="list-style-type: none"> ZOOMを利用し、初任者研修と中級研修をそれぞれ全3回開催した。初任者研修は他事業所の職員と事業内容を知り、横のつながりを意識してもらうことを目的にし、中級研修は権利擁護をテーマに支援の幅を広げることとモチベーションの向上を目的とした内容で参加者同士で意見交換を行った。参加人数は、初任者が12名、中級が9名。 コロナ禍で事業所懇親会の開催が困難なため、ZOOMを利用し、市内障がい福祉従事者によるオンライン交流会を実施。参加人数は、15名。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の多くから「他事業所のことを知ることができた」、「色々な人と意見交換ができて良かった」等、障がい福祉従事者同士のつながりを意識した感想がもられた。 市内障がい福祉従事者が気軽に参加でき、雑談を通して、お互いのことをより深く知ることができる機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業内容等、実際に見てもらうことはできていない。「事業所見学ができると良い」と要望があったため、オンライン等で事業所見学会を開催できるよう検討していく。

4 次年度の目標（案）

① 障がい福祉従事者がソーシャルワークの視点を意識できるようになる。

② 市内の事業所・機関の役割や取り組みについて知る機会を、障がい福祉従事者同士のネットワークで開催していく仕組みを作っていく。

令和3年度みよし市障がい者自立支援協議会 暮らしの場検討チーム 事業報告書

(作成：令和4年3月9日、担当：わらび 相談支援専門員)

1 目的

障がい者（児）が、地域で生活できる仕組み（緊急時対応、住まいの場の確保等）を構築する。

2-① 目標、達成度

緊急時の受け入れ体制を整備する。	達成度	70%	次年度の方向	継続
------------------	-----	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
緊急時の定義に基づいて、市内の緊急時対応を必要とする方の実態把握をする。	<ul style="list-style-type: none"> WG を年3回開催し、緊急時対応について協議することができた。 相談支援専門員に緊急時対応を必要とする方の実態把握を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応フローを作成し、実用に向けて準備することができた。 緊急時対応を必要とする方を把握することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応を必要とする方に案内し、利用登録に繋げていく。 緊急時に備え受け入れ先の準備を行っていく。
豊田みよしケアネット（以下、ケアネット）を活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時に備えるため、6月17日にケアネットの活用についての勉強会を開催した。 1月にケアネットでプロジェクトを立ち上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ケアネットの活用方法を学ぶことができた。 各事業所がケアネットに登録することができたため、WGに関する連絡事項等の周知に活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> WGの参加者でケアネットを情報共有のために活用しているが、内容確認に時間がかかっている状況である 緊急時に備え、常時ケアネットを活用できるよう検討していく。

2-② 目標、達成度

障がい者（児）が、地域で生活できる仕組み（住まいの場の確保等）について協議する場「部会」を設置する。	達成度	50%	次年度の方向	変更
--	-----	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
部会設置に向け、月に1回検討チームで協議する	<ul style="list-style-type: none"> 月1回検討チームで話し合いを行う。 地域で生活できる仕組み（住まいの場の確保等）について検討していくため、下記のとおり意見交換を実施した。 6月28日 愛知共同住宅協会理事 8月2日 国土交通省中部地方整備局 9月14日 瀬戸市居住支援協議会 10月26日 みよし市役所各担当課（福祉課、長寿介護課、子育て支援課、都市計画課） 1月24日 住まいサポートなごや 	<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況及び取組について確認することができた。 居住支援を考えていくために必要な情報（具体的な取組の進め方など）を収集することができた。 みよし市における居住支援の課題等の整理に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各担当課として居住支援の必要性は感じているが、課題解決の優先順位が低い。 各担当課や相談支援専門員に対しての勉強会を実施する中で、居住支援の必要性について共通認識を持っていく。 WGを継続し、地域で生活できる仕組み（住まいの場の確保等）について協議する場の設置に向けて取組んでいく。

4 次年度の目標（案）

- ① 緊急時の受け入れ体制を整備する。
- ② 障がい者（児）が、地域で生活できる仕組み（住まいの場の確保等）について話合う場が設置できるように取り組んでいく。

1 目的

障がい児の早期発見とライフステージに応じた地域での生活を支援するための協議及び事業を行うことにより、障がい児の福祉、保健、保育及び教育を実施する関係機関の職員及び家族の療育意識を高め、障がい児福祉の向上を図る。

2-① 目標、達成度

乳幼児健診以後の支援体制を見直す（早期対応段階の取組）。	取組内容の達成度	90%	次年度の方向	継続
------------------------------	----------	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
<ul style="list-style-type: none"> 関係機関に『ふたば』の理解を深める取組を行う。 健診からより『ふたば』に繋がる支援体制を見直すために作業部会を設置し、話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業部会を設置し、9月から月1回の頻度で課題に関しての話し合いを行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①より早い段階での早期発見、早期支援 ②就労している家庭への発達支援 ③2歳児の療育の充実 <p>【具体的な取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子育て支援体制の振り返り、健診から親子通園までに繋がる基準の確認 ②対象児数の把握、ふたば保護者を対象にアンケートを実施 ③他市町の状況把握、ふたば、よつば、なのはなにヒアリングを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①部会構成員で市の子育て支援体制に関して共有することができた。 健診時の子どもを見る視点（フロー）を振り返る良い機会になった（保健センター）。 ②対象児は一定数いるが、休日に事業を開催しても、希望者が少ないことが分かった。 ③単独通園と親子通園のそれぞれのメリットデメリットを把握することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①みよし市の健診フローが現状に即しているのかを検証する必要があるため、まずは検証するポイントの検討が必要である。 ②療育が必要な子どもが療育を受けられる仕組み作りが必要。方法としては保護者の気づきの支援（ペアレントプログラム研修など）や保育園・幼稚園の先生を育てる支援（研修の実施など）を検討する必要がある。 ③対象児が福祉サービスを利用するか否かなど、児童発達支援運営員会と役割分担をして検討する必要がある。

2-② 目標、達成度

つながりシートの効果を確認し、様式等の改定につなげていく（就学移行段階の取組）。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	継続
--	----------	------	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
保護者の意見を確認すること、シートの改善点の評価ができるよう、保護者向けアンケートを行う。	令和3年12月に保護者向けアンケートを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> 39名の保護者から回答を得ることができ、保護者の率直な意見を聞くことができた。 <p>【意見（抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校側にこどもを理解してほしかった。 ・心配事を学校に知ってほしかった。 ・シートを書くことで変わった子と思われないうか、特別扱いされたり、いじめられたりしないか不安だった。 ・家では育てにくさを感じていなかったが、シートを書くことで手のかかる子と思わざるを得なかったのでショックだった。 ・入学前に担任の先生と話ができて、不自由なく学校に通えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの率直な意見を参考に、様式を変更する等より良い活用ができるような検討が必要。 ・記入してよかったという意見も多かったが、マイナスの意見も多かった。小学校にシートの活用方法や保護者と園の思いを伝えることでマイナス面の改善に繋がるのではないかと考えられる。

		<ul style="list-style-type: none"> 先生によって活用するかどうか差があってはいけないので、何かしらガイドラインがあるとよい。 「発達障がいはこちらだから…」と決めつけられ、逆に辛い思いをさせた。 つながっていない。結局入学後にこどもの説明をしたし、特別支援学級に行くレベルでないと個別の教育支援計画も書いてもらえない。 	
保育士や教師との意見交換を実施する。 (次年度も実施予定)	<p>【実施先】 小学校 - 三吉小、黒笹小、南部小、北部小 保育園・幼稚園 - ベル幼、マーガレット幼、打越保、すみれ保</p> <p>【実施者】 相談支援地域アドバイザー、豊田市こども発達センター、学校教育課、三好特別支援学校、豊田特別支援学校、幼稚園代表、児童部会事務局</p>	<p>【小学校意見（抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援のヒントになる。個別に配慮できる。 保護者との会話がスムーズ。 保護者の思いも知ることができる。 生育歴の記入があるとよい（健診の様子など） <p>【園意見（抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> シートを渡しに行った際に、補足で説明ができ、先生と話すきっかけになった。 先入観を持って関わってほしくない。シートがあるからと言ってできないわけではなく、できるように支援してほしい。 記入欄が狭い。 ◎、○、△の判断がしにくい。 提出後、どうやって活用されているのか見えない。 	小学校の教員へもヒアリングでは、シートがあることで支援の検討に役立っていることを確認することができたが、記入する園の保育士に学校での活用方法が伝わっていないため、園へのフィードバック方法について検討する必要がある。

2-③ 目標、達成度

学齢期の課題解決に向けたプランを作る。(3年計画の2年目)	取組内容の達成度	70%	次年度の方向	継続
-------------------------------	----------	-----	--------	----

3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
<p>【令和2年度のヒアリングから見えた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①関係機関との連携強化 ②保護者対応の難しさ ③外国籍児童の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育課主催の相談支援専門員との交流会に参加（第1回目はオンライン開催）。 ②基幹的相談支援センターとペアレント・プログラム研修の開催に向けて検討した。 ③学校教育課と課題の共有を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援コーディネーターと顔合わせができた。 ②実施に向けて基幹的相談支援センター職員と意見交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①交流会のテーマに関して、学校教育課と検討する必要がある。 ②開催に当たって対象者を誰にするかなど、検討する必要がある。 ③課題の共有のみで検討できていない。

4 次年度の目標（案）

① 乳幼児健診以後の支援体制を見直す（早期対応段階の取組）。
② つながりシートの効果を確認し、様式等の改定につなげていく（就学移行段階の取組）。
③ ペアレント・プログラム研修を実施し、成果を確認する（早期対応段階、学齢期の取組）。

令和3年度みよし市障がい者自立支援協議会 就労支援部会 事業報告書

(作成日：令和4年3月9日、担当：みよしはたらく協議会 就労移行支援事業担当)

1 目的

働く意思を持っている障がい者及び障がい者を雇用している企業または障がい者を雇用しようとしている企業を支援するために、必要なシステムや事業等を協議・検討し具体的に実施していく。

2-① 目標、達成度

職場体験先を1職種増やす。	達成度	90%	次年度の方向	継続
---------------	-----	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
職場体験先の職種を増やすため、就労支援事業を中心に市役所での体験実習を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで事務系の職場体験の依頼ができた企業はなかったが、市役所で9月と12月にそれぞれ1名の体験実習を行うことができた。(9月：2日間9：00～15：00、12月：1日間10：00～12：00) ・令和3年9月29日に開催した雇用支援セミナーでVTRを上映した。 	職場体験者が事務系の仕事の具体的な仕事のイメージを持つことができた。また、市役所との振り返りを行うことで、仕事をする上で課題を認識できた。	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所での職場体験の実績を積み重ね、課題を検討していく。 ・引き続き職場体験先を増やす取り組みを行う。 ・映像を使用した啓発方法を模索していく。

2-② 目標、達成度

企業が障がい者雇用を積極的に考えるようになる。	達成度	90%	次年度の方向	継続
-------------------------	-----	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）																
企業を対象としたセミナーを企画し、開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年9月29日にオンラインで第1回障がい者雇用支援セミナーを「障がい者雇用を進める際の課題解決に向けて」をテーマに開催した。参加企業数は、17社。短時間勤務に取り組みたいと具体的な対応を挙げる企業も見られた。 ・令和4年2月22日に第2回障がい者雇用支援セミナー「障がい特性と職務内容/マッチングのコツ」をテーマに開催した。参加企業数は、23社。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数が増加した。オンラインで開催したことや関係機関からの周知などが要因と考えられる。 ・企業からの研修への要望も出てくるようになった。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <caption>雇用支援セミナー参加者数</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>8社</td> <td>9社</td> <td>17社</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>8社</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>23社</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>7社+2校</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </tbody> </table>		令和元年度	2年度	3年度	第1回	8社	9社	17社	第2回	8社	/	23社	第3回	7社+2校	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動として、障がい者雇用支援セミナーの開催を継続していく。 ・オンラインで開催するスキルの習得。 ・企業のニーズを探り、セミナーのテーマを検討していく。また、セミナーを単発で考えるのではなく、連続性を持たせた内容にすることを検討する。 ・対象を企業だけでなく、福祉や教育等に広げることも検討していく。(就労支援部会あり方検討WGより)
	令和元年度	2年度	3年度																
第1回	8社	9社	17社																
第2回	8社	/	23社																
第3回	7社+2校	/	/																

2-③ 目標、達成度

はたらくことについての問題点と課題を整理するとともに、就労支援部会のあり方を検討、整理する。	達成度	60%	次年度の方向	継続
--	-----	-----	--------	----

3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
<p>①みよし市内の中学の職場体験の実態を調査する。</p> <p>②部会検討WG（以下、検討WG）で調査方法を話し合い、福祉、教育、企業等の関係機関に協力を求めながら現状を把握し、問題と課題を整理していく。また、就労支援事業と就労支援部会の役割分担を明確化していく。</p>	<p>①2校に実態調査を行った。（市内中学校4校のうち2校は職場体験を中止）。アンケート回収数は3名（対象者9名）。</p> <p>【意見（抜粋）】</p> <p>体験先は希望した先ではなかったが、体験してよかった。</p> <p>②検討WGを4月～1月で計12回開催し、平成20年から令和3年までの就労支援部会の活動年表を作成した。また、平成22年に出された9つの課題の評価を行い、現在の課題を検討した。</p> <p>就労支援事業と就労支援部会の役割分担については、検討しなかった。</p>	<p>①アンケートが思うように回収できず、少人数ではあったが、職場体験が希望通りに展開できていないことが分かった。</p> <p>②就労支援の個別ケースの支援課題が挙がってきていないことが分かった。</p> <p>専門援助部門の相談は、豊田市でしかできなかったが、オンラインでの相談が可能となった（登録、相談、紹介状交付）。</p> <p>新しい課題として、定着、リワーク、手帳を持たない難病、若年性認知症の支援を挙げることができた。</p>	<p>①市内2校の職場体験の中止やアンケート回収率が低かったこともあり、多くの意見を聞くことができなかった。次年度再検討。</p> <p>②就労支援における個別ケースの支援課題を整理することが必要である。</p> <p>定着については、市内就労移行支援事業所の利用者と就職先企業を対象に実態調査を行う。その他の課題については、今後継続して検討する。</p> <p>部会に企業の参加がないため、参加のあり方を検討していく。</p> <p>就労支援事業と就労支援部会の役割分担について、今後検討していく。</p>

4 次年度の目標（案）

① 職場体験先の職種を増やす。
② 障がい者雇用を積極的に考えてもらえる企業を増やす。
③ はたらくことについての問題点と課題を整理するとともに、就労支援部会の在り方を検討していく。
④ 就労定着についての現状と課題を探る。

令和3年度みよし市障がい者自立支援協議会 精神保健福祉部会 事業報告書

(作成日：令和4年3月9日、担当：はたらくサポートセンター 相談支援専門員)

1 目的

精神保健福祉の関係機関が連携し、精神障がい者が地域で安心して生活していけるよう、支援システムを構築する。

2-① 目標、達成度

支援につながり、社会参加していける仕組みを作る。	取組内容の達成度	50%	次年度の方向	継続
--------------------------	----------	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
地域の「ひきこもり支援」を検討する連絡会を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 部会内にひきこもり支援連絡会を設置し、地域のひきこもり支援機関が集まる意見交換（準備会）を9回開催した。 精神障がい者等サポート事業及びシエルブルー（居場所）の準備進捗を部会に報告し意見交換を行った。 「ひきこもり経験者と語りあうトークライブ」を令和4年3月19日に開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもり支援機関との連携構築ができた。 ひきこもり経験のある当事者の声を聴く機会が持てたことで、ひきこもり支援の現状に対する家族や支援者の理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> シエルブルーの開所に当たり、精神障がい者支援の仕組みが充実していくように検討を継続していく必要がある。 ひきこもり支援連絡会の役割を明確にし、本格的に発足させる。

2-② 目標、達成度

当事者が地域で楽しんで活動できる仕組みを作る。	取組内容の達成度	10%	次年度の方向	継続
-------------------------	----------	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
当事者が当事者から学べる機会（学習会等）を開催する。	当事者向けのリモートセミナーなどを検討してきたが、学ぶことへの抵抗感やリモート参加の難しさ等が原因でセミナー参加者の確保が難しいため、次年度に再検討することとなった。	当事者が社会参加していくためには、様々な抵抗感があること等当事者の社会参加に対する問題意識が高まった。	<ul style="list-style-type: none"> シエルブルー等を活用して当事者同士が会える場（機会やイベント）を創出する。 ピアサポートできる場作りやピアサポーターの養成等の仕組みを作る。

2-③ 目標、達成度

入院に至らず、地域で生活していくための支援を検討し仕組み化する。	取組内容の達成度	40%	次年度の方向	中断
----------------------------------	----------	-----	--------	----

3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
個別支援ケースを持ち寄り必要な支援を検証し、優先順位を決め、必要な支援作りに取り組む。	WGを4回開催し、精神科病院の困り事に関するヒアリング内容と地域の相談支援で把握している課題を照らし、市の精神保健福祉に関する地域課題の整理を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 精神科病院の担当する地域を超えた広域な精神保健福祉課題を知る機会となった。 市の精神保健福祉の地域課題がより明確になった。 	課題は複数挙がったが、解決に向けた検討には至っていない。課題を絞り込んで検討を始める必要がある。

4 次年度の目標（案）

① 支援につながり、社会参加していける仕組みを作る。

令和3年度みよし市障がい者自立支援協議会 医療的ケアさぽーと部会 事業報告書

(作成日：令和4年3月9日、担当：キッズラバルカ 相談支援専門員)

1 目的

日常生活を営むために医療を要する状態にある児（者）（以下「医療的ケア児（者）」という。）及びその家族の住み慣れた地域での生活をサポートするために、多職種が集まり、必要なシステムや事業などを協議・検討し、具体的に実施する。

2-① 目標、達成度

医療的ケア児（者）を地域に知ってもらう。	取組内容の達成度	80%	次年度の方向	継続
----------------------	----------	-----	--------	----

3-① 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
WG を設置し、緊急時に対応できるよう地域に医療的ケア児（者）を知ってもらうための方法を検討・実行する。	WG を設置し、年2回開催した。医療的ケア児（者）を知ってもらうため自宅に訪問し、母からの意向と自治区の役員の確認を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児（者）や家族が災害時のイメージができておらず、災害時の準備をしていないことが分かった。 自治区の役員に医療的ケア児（者）を知ってもらうことができた。 	大規模災害等、家族が準備を必要だと感じていても、イメージが湧かないため、シミュレーションを行う。自治区でできること、利用している事業所でできることを明確にする。

2-② 目標、達成度

医療的ケア児（者）の受け入れ場所を確保し、緊急時等に備える。	取組内容の達成度	30%	次年度の方向	継続
--------------------------------	----------	-----	--------	----

3-② 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
医療的ケア児（者）の一時的な受け入れについて、市内医療機関と年間の動きを共に計画し、協議の場を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> 豊田市の医療型短期入所導入の経緯と予算を確認し、市内医療機関と情報共有の場を持ち伝えることができた。 年間の動きについて協議の場を設けることはできていない。 	豊田市の方法（医療機関に福祉サービスとして短期入所の指定を取ることや、個室料金の補助等）は、みよし市には適さないことが分かった。	市内医療機関の小児科医が不在となったため、療養介護での受け入れが可能かどうか、対象者を絞り検討していく。
市内の医療的ケアが必要な人やその家族の現状等、共有する機会を設ける。	新型コロナウイルス感染症拡大のため、情報交換会を設けることはできなかったが、医療的ケアが必要な方やそのご家族の現状等を口頭で市内の医療機関と共有した。	市内医療機関と情報交換会を行ってきたことで、市内の医療的ケアが必要な方とその家族の周知に繋がった。	リモートでの開催方法を検討する。

2-③ 目標、達成度

今ある資源の評価と課題解決を行う。	取組内容の達成度	100%	次年度の方向	変更
-------------------	----------	------	--------	----

3-③ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
医療的ケアが必要な方の情報ガイドを豊田市地域自立支援協議会と共同し、啓発と修正を行う。	豊田市地域自立支援協議会と年6回打ち合わせし、修正を行った。情報ガイドを利用する対象者を絞り、当事者（家族・医療機関）にヒアリングを行った。	当事者（家族・医療機関）が必要な情報に修正することができた。	<ul style="list-style-type: none"> みよし市と豊田市では、部会の動きが異なるため、次年度共同で行う必要があるのか検討する。 必要な方の手に渡るように、保健センターとNICU 等がある医療機関へ啓発する。
医療的ケア児等コーディネーターWG にて、	・年4回 WG を開催。医療的ケア児等コーディネーター	・不明瞭だったみよし市の医療的ケア児等コ	医療的ケア児支援法が施行され、更に保育・

<p>医療的ケア児等コーディネーターの立場を確立するための検証と、医療的ケア費給付事業の周知啓発を行う。</p>	<p>ネーターの定義と役割分担を明確化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任命書の発行をした。 ・医療的ケア児等コーディネーターWGに学校教育課参加のもと、医療的ケア費給付事業の周知啓発について方法を検討した。 	<p>ーディネーターの役割を明確にすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任命書を発行することで外部にも発信できる。 ・学校との窓口を特別支援教育コーディネーターとした。 	<p>教育との連携を強化する必要がある。連携を図るため、WGへの参加を依頼する。学校との窓口になる特別支援教育コーディネーターが医療的ケア費給付事業を理解できるようにため、学習会を開催する。</p>
--	---	---	---

2-④ 目標、達成度

<p>医療的ケア児（者）の対応可能な人材を増やし、育成するための研修会を開催する。</p>	<p>取組内容の達成度</p>	<p>100%</p>	<p>次年度の方向</p>	<p>継続</p>
---	-----------------	-------------	---------------	-----------

3-④ 取組内容

取組内容	実績	成果	課題（展望）
<p>医療的ケア児（者）に対しての知識や技術を伝達できる研修を福祉事業所だけでなく、保育・教育の場でも行っていく。</p>	<p>医療的ケア費給付事業利用者が在籍する小学校教員向けに在宅酸素と心臓疾患について勉強会を開催した。</p>	<p>担任以外の教員も含め、在宅酸素の理解を深めることができた。</p>	<p>医療的ケア費給付事業利用者がいる保育・教育の場について、新年度の初めに本人理解も含め、個に合わせた医療的ケアの勉強会を学校教育課と共同で行っていく。</p>

4 次年度の目標（案）

<p>① 医療的ケア児（者）を地域に知ってもらう。</p>
<p>② 医療的ケア児（者）の受入れ場所を確保し、緊急時等に備える。</p>
<p>③ 医療的ケア児等コーディネーターWGを中心に、市内医療的ケア児者の課題整理を行う。</p>
<p>④ 医療的ケア児（者）の対応可能な人材を増やし、育成するための研修会を開催する。</p>